

(1) 主題：「人間として生きる喜び」

資料名：「償い」

出典（かけがえのないきみだから 2年）

内容項目：3-(3) 人間の弱さの克服、人間の気高さ、生きる喜び

(2) 本時のねらい：自分の行為に責任を持つことの重要さと、誠実に生きることの大切さを考えさせたい。自らの人間性の成長と仲間との豊かな信頼関係を育てていくために、相手を尊重し思いやる態度を育てたい。

志願の道徳授業。国頭教育事務所指導主事招聘授業研である。

松田先生は、本来社会科の教師であるが今年度は、初任者の指導教諭と、2年担任で英語の学習指導を担当している。

前年度も、国頭中学校で何度も授業公開に臨み、国頭中学校での校内研修の充実に大きく貢献してもらっている。昨年も道徳の時間におけるモラルジレンマの葛藤教材の授業を提案してもらったが、今年度も志願の道徳の授業である。すばらしい！

「道徳の授業をやります。」なかなかいないような気がする。自ら道徳の公開授業を志願できる教師。思春期の揺らぐ中学生の心に、授業を通して何か「ひとつの明かりを心に灯してあげたい。」そんな一教師の使命感と、生徒たちを思いやる教師としての熱意と授業への誠実さを感じる。



【淡々と授業始まる】 国頭中学校は日常的な学年研修等における互見



写真①

授業は行われているが、本日は主事を招聘しての授業研である。国頭中のすべての先生方が見守るなかで淡々粛々と授業が始まる。写真①、資料を配布しながら生徒の様子をうかがう教師。写真②、生徒は「今日は何をする。」に常に期待している。渡された資料にすぐに食いつく。



写真②

【ICTの活用】 時代とともに授業効果のために貪欲に活用する。



写真③



写真④

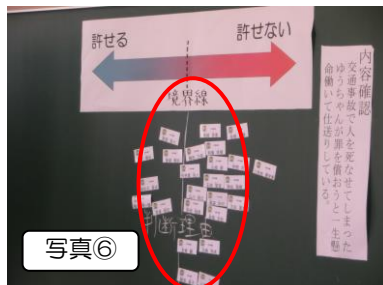


写真⑤

先週の辺土名小学校の上地潤先生（6年理科）がアイパッドを使って教材提示や説明に使っていたが、今日は何と、写真③、スマホから映像をデジタルTVに投影して資料の理解と解説が進められた。「わかりやすい」である。写真④⑤、食い入るように観る生徒達である。

【テーマが下される】 資料前段部分の葛藤テーマである「ゆうちゃんを許せるか？許せないか？」

ワークシートで、生徒各々で考えるように指示する。途中「『償い』って何？」「『許す』ってどうゆうこと？」生徒の素朴な「つぶやき」が出た。つぶやきなので授業者の耳元まで届いていないことは多々ある。このつぶやきをどう扱うかは授業者のデザインである。写真⑥、授業者はこの結果をどう見たらだろうか？「許せる」



写真⑥

「許せない」のほぼ境界線に集まっている。中央に「分からない・選べない」を設定するとどうだったであろう？

個人的な意見に聞こえるかもしれないが「分からない・選べない」生徒ほど「選択の葛藤」を起こしているのだと思うのだが。ジレンマとは一人一人の心の中で起こることである。

【教師語る】 1回目の共有を図る。生徒に発表させた後、教師の補助説明や解説が入る。生徒の発表をリボイスし、生徒の意図や考えを確認し、さらに、みんなに投げかけて確かめる。長い。教師の一方的な話が10分近く続いた。結果が右の写真である。



生徒の様子を見とって進めたい。話したくても聴く側にその意思がなければなんの意味もなさない。

【資料後半部分の視聴】 食い入るように見つめる生徒達の表情である。



「許せる」「許せない」を強いて判断させられた後である。みんな話の結末に興味津々。視聴の後、「被害者の奥さんは、なぜ許せたのだろう。」について、グループで話し合うデザインである。

しかし、生徒の中には仕送りはやめさせたが旦那さんの「死」については許していないなどの意見が出た。

【グループへ】



【練り合い】 のはずだが、なぜか司会者と記録係りが決められた。



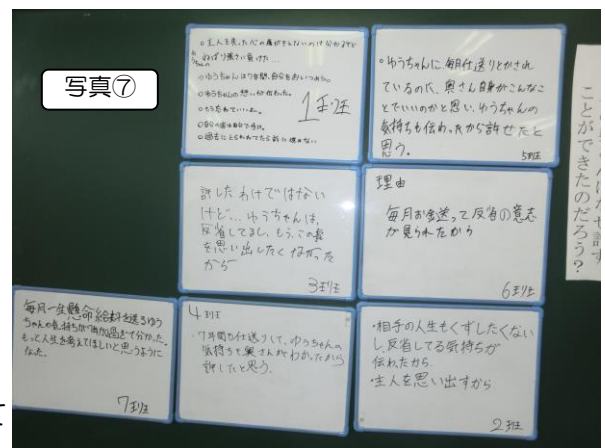
各々の考え方の交流である。ホワイトボードにグループの意見としてまとめるといのは、排除される個人の考えがあることが前提になる。各々が自分の考えを持ち、「他者との対話によってさらに深めてもらうと考える。」のであれば、ホワイトボードや司会は必要ないのではないか？（シンキングボードとしての活用）

【まったく個人的な考察と意見である】

グループは3~4人の7グループあるが、1班以外はほとんど一文で書かれている。確かに一文にするためにいくつかの話し合い（練り合い）があったことは予想できるが、まとめることが目的の授業ではない。心の中の『葛藤』を目的とし、その結果が当然生徒一人一人の心の中に描かれることが大切にされなければならない。「分からない、決めきれない。」も正直な生徒の本音と考える。決めきれない生徒ほど心の中で『葛藤』が生じていることを分かってあげたい。

しつこい様だが、葛藤は人の心で起こりうることで、黒板や机上で起こることではない、ややもすると「決めてしまったこと。」の正論化のディベートになりかねない。

「決めきれない」これもかなりつらい葛藤である。前ページの写真⑥、できるだけ中央に置きたがる生徒の心を見つめたい。「決めきれない」理由をぜひ交流させたかった。



松田先生ありがとうございました。私にとっても「道徳の時間」の授業研究会はとっても貴重です。去年に引き続き感謝します。松田先生の教師としての前向きな姿勢はぜひ多くの先生方に手本にしてもらいたいです。下記の記事、写真⑦から「奥さんがゆうちゃんを許したと思われる理由。」である。

- 過去にとらわれたら前に進めない。(1班)
- 相手の人生も崩したくない。(2班)
- ゆうちゃんに自分の人生について考えてほしいと思うようになった。(7班)

多くの生徒が、奥さんになり、私なりのゆうちゃんへの思いを描いたのではないのでしょうか。

国頭学びの会ゆい